

事業所における自己評価結果

児童発達支援事業所 りんりん

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			
	②	職員の配置数は適切である	6			・人員配置基準を満たしています。 ・保育士や看護師,作業療法士など専門分野を生かして対応しています。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6			
	④	生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている。	6			・活動に合わせ視覚刺激になる遊具などの配置を適宜整備しています。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6			・PDCAサイクルを心掛け、定期的にミーティングを行っています。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			・ホームページにて公開しています。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	1		・外部評価を行い、業務改善に努めています。
	⑨	職員の質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			・外部研修の参加を積極的に実施しています。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1		・遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表を使用しています。スタッフが共有しやすいアセスメントツールを今後検討したいと思います。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6			・保護者のニーズを聞きながらガイドラインに沿って個別支援計画を作成しています。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			・毎月活動プログラムを作成し職員で話し合い決めています。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			・様々な経験ができるよう、道具や素材を段階づけてプログラムを立てています。 ・季節の行事や活動を取り入れたり利用者の年齢に応じて考えています。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6			
		支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを				

	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			・その日の打ち合わせと活動の振り返りを必ず行い、次回の改善につなげています。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6			
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6			
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6			
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6			
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1		・保護者の要望に応じて個別支援計画を共有する等情報提供をしています。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1		・保護者の要望に応じて県の移行支援シートを使って就学先への引継ぎを行っています。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6			
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		6		・コロナの為実施が難しい状況です。法人内での交流会を行っています。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	4		・コロナの状況をみながら今後は積極的に参加したいと思います。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	6			
保護者	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・プログラム等)の支援を行っている	2	4		・必要に応じて個別に行っています。 ・日常の助言や相談の中に家族支援の視点を持っています。スタッフがペアレントプログラムの知識を習得出来るように積極的に研修会に参加したいと思います。
	㉜	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			
	㉝	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			
	㉞	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			・半年に一度面談を行っていますが、いつでも気軽に相談できる関係作り・体制作りに努めています。

ロへの説明責任等	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6		・コロナによりここ数年実施出来ていない状況です。保護者が気軽に参加出来る茶話会等を計画したいと思います。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に発信している	6			・毎月りんりん便りを作成し配布しています。
	③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意している	6			
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6		・コロナの状況をみながら今後企画したいと思います。
非常時の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	1		・今後しっかりと保護者に周知します。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に救出その他必要な訓練を行っている	6			
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	6			
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	5		・契約時に保護者に確認し、医師の診断含め、保護者の意向に沿って対応しています。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			・外部研修に参加し、定期的に職場内研修を行っています。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6			